

どうか、ゴブリンを退治して下さい

——眼前の恐怖も、想像力の生みなす恐怖ほど怖ろしくはない

ウィリアム・シェイクスピア

01. はじめに

このシナリオは『新クトゥルフ神話 TRPG ルールブック (7 版)』の 1920 年代探索者、または『クトゥルフ神話 TRPG (6 版)』『クトゥルフ・バイ・ガスライト』を用いた 1890 年代探索者で遊ぶことができます。6 版で遊ぶ場合は、技能や対抗ロール、ボーナスダイスの扱いをコンバートしてください。

PC2~4 人向けにデザインされたショートシナリオであり、想定プレイ時間はオフラインセッションやボイスセッションで 1~2 時間程度、テキストセッションで 4~5 時間程度です。ヴィクトリア朝イギリスのリアル知識は無くても大丈夫。TRPG 初心者でも楽しめるよう意図しています。

●技能判定の表記について

本シナリオにおいて、技能判定は下記のように表記します。

→ 〈応急手当〉〈医学〉

彼は怪我をしているようだ。

これは、「〈応急手当〉または〈医学〉の判定に成功した場合、彼が怪我をしていると推測できる」という意味です。KP はこれ以外の技能成功でも情報を開示して構いません。

02. 今回予告

19 世紀末、それは、魔術と科学がふるい分けられた時代。イギリスには心霊現象研究協会が発足し、テレパシーや催眠術、幽霊、降霊術などが科学的視点で研究されていた。

そんなある日、探索者は一通の手紙によって、ゴーツウッドの森にほど近い村を訪れることになる。手紙には、こう記されていた。

「どうか、ゴブリンを退治して下さい」と……

03. 探索者の作成について

このシナリオのテーマは"ヴィクトリア朝農村観光ツアー"です。探索が中心ですが、戦闘もあります。探索者の社会階級は問いません。

●〈信用〉について

この時代は、現代よりもはるかに〈信用〉が重んじられた時代です。探索者が公的な場で野蛮な振る舞いをした場合、KP は〈信用〉の技能値を減少させることができますでしょう。

04. NPC の紹介

マリア・ヘイデン (29 歳)

聡明な女性ですが、1 年前に夫と息子を亡くし、今は狂気の淵にいる母親です。村人は、息子は生き

ているとみなしていますが、彼女にとってそれは"妖精の取り替え子 (=ゴブリン) "なのです。そして彼女の直感通り、今の息子は人間ではなく、レッサーショゴスによるコピーです。彼女は疑心暗鬼に陥っており、村の人々を誰も信用していません。

ノア・ヘイデン(9 歳)

マリアの息子ですが、その正体は"古のもの"の機械によってレッサーショゴスで形成されたコピーです。見た目は人間そっくりですが、時間が経過すると劣化していき、やがて活動を停止します。

ルシアス(34 歳)

狂える狩人です。1 年前、マリアの夫と息子が死亡した事故現場に駆けつけたところ、何かに呼ばれるように洞窟に入っていき、"古のもの"の機械(生命実験機)を発見してしまいます。かろうじて身体に残っていたノアが機械で再生するさまを見て、彼の心は完全に壊れました。現在は機械によってノアを定期的にコピーしており、余分なコピーに自分の下働きもさせています。

STR:60 CON:60 SIZ:60 INT:50 POW:40

DEX:50 APP:55 EDU:40 SAN:0 H P:12

技能: 目星 45%、追跡 60%、隠密 50%、信用 5%

武器: 近接格闘(棍棒) 30% 1D8 ダメージ

射撃(20 ゲージショットガン) 50% 射程 10/20/50m

ダメージ 2D6/1D6/1D3 総弾数 2

ジョージ・ウォーカー(59 歳)

狂える村長です。ルシアスから"古のもの"の機械について聞かされ、正気を失いました。現在は、コピーしたノアを食肉用に加工販売することによって、産業革命で過疎化が進む村に賑わいを取り戻そうと考えています。"古のもの"の機械について知

っているのは、ウォーカー村長とルシアスの二人だけです。他の村人にもいずれ明かす必要があると思っていますが、今は秘密にしています。

STR:40 CON:55 SIZ:50 INT:70 POW:45

DEX:35 APP:45 EDU:60 SAN:0 H P:10

技能: 説得 40%、信用 15%

武器: 近接格闘(肉切り包丁) 30% 1D4+2 ダメージ

ニコルソン(41 歳)

2 年前に村に赴任してきた教区牧師兼・徴税人です。温厚な性格ですが、内心では教養の無い村人を見下しており、表面的な付き合いしかしていません。田舎暮らしにうんざりしているので、都会から来た探索者を歓迎するでしょう。

タバサ(53 歳)

よろず屋の女主人です。産業革命によって次々と若者が街へ行き、人が減っていく村の未来を諦めています。

ヘンリー・シジウィック(52 歳)

心霊現象研究協会の初代会長にして、ケンブリッジ大学教授です。開明的な性格であり、女性に対する高等教育を推進しました。探索者が女性や非キリスト教徒、外国人、下層階級であったとしても、好意的に接してくれるでしょう。

05. シナリオの背景

ゴーツウッドの森を切り開いてつくられた村、ノーマンズランドの近くには、遙かな昔、"古のもの"によってつくられた生命実験機がありました。レッサーショゴスによってあらゆる生き物をコピーするという忌まわしいその機械は、周囲の生命に影響を与えており、村では、しばしば奇形が生まれていました。

そして1年前の夏、土砂崩れによって、マリアの夫エドワードと、息子のノアが死亡します。まさきに現場に駆けつけた狩人のルシアスが見たものは、無残にひしゃげたエドワードと、かろうじて生きているノアでした。

生命実験機は、その土砂崩れによって開いた洞窟の奥に眠っていました。狩人はノアを抱えたまま、何かに呼ばれるようにしてそこに入っていきます。見たこともない「機械」だったにもかかわらず、なぜか使い道はすぐに分かりました。そしてその機械は、瀕死のノアから、五体満足なノアを製造したのです。ルシアスはそのコピーを村に連れて帰りました。

時間が経過するとノアの身体が弱っていくことに気付いたルシアスは、定期的にコピーを繰り返します。秘密を抱えていることに耐えられなくなった彼は、ウォーカー村長にすべてを打ち明けます。そして二人は正気を完全に失いました。ノアの身体を複数コピーし、ルシアスは自分の下働きとしてこき使い、ウォーカー村長はその人肉を加工肉にして、村の産業にしようと考えたのです。

一方、母親のマリアは、早い段階で息子がノアでは無いと直感しました。彼女は、おとぎ話に伝える「妖精の取り替え子(=ゴブリン)」だと考えたのですが、村人の誰ひとり、それを信じた者はいませんでした。死してなお冒瀆的な目に遭っているほんとうの息子を救済して欲しい。彼女は必死の想いを込めて、一通の手紙をしたためます。その手紙によって、探索者が村を訪れることになるのです。

06. 想定するセッションの流れ

- (1) マリアからの依頼を受ける
- (2) ノーマンズランドの村を探索し、マリアから崖の居場所を受け取る
- (3) 深夜、崖に移動するノアの後を追う
- (4) 崖下の洞窟にてルシアス&ウォーカー村長と戦闘しこれを倒す
- (5) 暴走するレッサーショゴスから逃走し、洞窟を封印する

07. 導入

(1) 探索者に直接手紙が届く場合

探索者が怪事件に関して名声を博していたり、オカルトに強い場合は、マリアからの手紙が直接、届きます。怪しみつつもその内容に興味を惹かれる、または、切実さに心を打たれるなどして、村に向かわせてください。この場合、探索者たちは全員知り合いで、1人が他のメンバーを誘うといいでしょう。

【手紙】

これほどの苦境にあるにもかかわらず、私の話を聞いてくれた方は誰もいませんでした。ああ！理性の守護者よ。私を哀れに思うのならば、どうかお助け下さい。私の愛する村は、今やゴブリンが我が物顔で闊歩する有様です。あの忌まわしくおぞましい顔ときたら！村人は理性を失いつつあります。このままでは神に見放され、ここは狂気に落ちるでしょう。息子の魂を救済するためにも、どうか、ゴブリンを退治して下さい。

マリア・ハイデン

→〈鑑定〉など

相当に安物の便箋とインクだ。マリアという女性
性は経済的に困窮しているようだ。

→〈母国語〉〈人類学〉

筆跡はかなり乱れていて平静ではないようだが、
誤字などは見られない。マリアという女性は一
定の教育を受けてはいるようだ。

※ちなみに、ヴィクトリア朝イギリスにおける 1851 年
の女性識字率は 54.8%、1900 年の女性識字率は 96.8%
です。初等教育の格差改善に力が注がれた時代でありま
した。

差出人の住所は、「グロウスターシャー州 ノーマ
ンズランド」となっています。

(2) 心霊現象研究協会からの依頼

探索者に直接手紙が届くことが不適な場合は、心
霊現象研究協会のシジウィック会長から、マリア
の手紙の調査を依頼されます。探索者はシジウィ
ック会長の知人・友人か、オカルトの専門家なの
か、怪事件にいつも関わっていることを知られた
のかもしれませんが。もしくは、探索者から何か仕
事をくれと頼み込んだのかもしれませんが。

催眠術、テレパシー、降霊術、幽霊屋敷、そして
妖精。こうした超常現象を科学的に解き明かすた
めに、19 世紀末、英国心霊現象研究協会は設立さ
れた。科学と魔術に、言わば境界線を引くことが
協会の仕事だ。貴方たちが老科学者のオフィスで
その手紙を受け取ったのは、1890 年の気だるい夏
の日だった。

「諸君等に頼みたいのは、このなんとも言えん手
紙に関する調査じゃよ」

「十中八九は妄言の類いだらう。儂も処分しかけ

たのじゃが、どうにも気になってな。いったい何
を指してゴブリンと言っているのやら。まさか妖
精が現れたということもあるまいに」

「汽車の手配などは既にしておる。では、よろし
く頼むよ」

08. 事前調査

探索者は〈オカルト〉〈図書館〉などに成功するこ
とによって、出発前に下記の情報を入手すること
ができます。

【ゴブリンについての調査】

・ゴブリンとは、ヨーロッパの民間伝承とゲルマ
ン神話に由来する妖精の一種である。文化が混ざ
り合う中で、国によってさまざまな外見、能力、
性格を与えられるようになった。

・スコットランドの民話に登場するゴブリンは「レ
ッドキャップ」と呼ばれている。凶悪な妖精であ
り、その帽子を人の血で赤く染めている。

・ドイツの伝説には、エルキングという悪意に満
ちたゴブリンが登場する。エルキングは英語では
エルフとも呼ばれる。

・イングランドのホブゴブリンは、友好的で悪戯
好きな妖精である。シェイクスピアの戯曲『真夏
の夜の夢』の道化師パックもホブゴブリンである。

・その他、ゴブリンはブラウニー、ノーム、イン
プ、コボルド等とも呼ばれる

・goblin という言葉は、中世ラテン語の gobelinus
に由来すると考えられる。これは、フランス北西
部ノルマンディー地域に出没する悪魔の名前だっ
た。

・近年（19世紀）は、ジョージ・マクドナルドの『プリンセスとゴブリン』やロセッティの『ゴブリン市場』などの児童書や詩において、夜を好み、人を憎む小人として描写されることが多い。

ロンドンから汽車で目的地へ向かう道すがら、探索者達は予習してきたゴブリンに関して話し合っていることでしょう。

09. ノーマンズランド

（※ちなみに「ノーマンズランド」という名前は一目おどろおどろしいですが、実際は森を切り開いて新たに作った「所有者のいない場所」という意味です。イギリスにはいくつか同じ地名があります。）

ロンドンから汽車でブリチェスターの街へ。一泊し、そこから馬車でゴーツウッドの森方面へ。丘陵地帯を進むことしばし。ようやく、その村は姿を見せた。グロウスターシャー州、ノーマンズランド。

中央に灰色の小さな教会。家畜の鳴き声が響く。暑さのためか、それとも手入れをしていないのか、民家の窓に鉢植えされているゼラニウムはしおれてしまっていた。ゴーツウッドの木々を使っているのだろう。家々は木造だが、どれも古く傷んでいた。道はレンガはおろか、砂利すら敷かれておらず、むき出しの土のままだった。お世辞にも豊かとは言いがたい村のようだ。広場には、裁判制度が始まった今ではもう使われることのない、絞首台の残骸が残っていた。

村の入り口にたどり着くと、麦わら帽子を深く被り、庭先で畑仕事をしている少年が探索者たちに

気づき、驚いたような顔をして家に駆け込みます。それからややあって、ひげ面の男が現れ、声をかけてきます。

※ひげ面の男はルシアスであり、少年はノアのコピーです。

「なんだい、アンタら。その顔は……行商人には見えねえな。役人かい？」

マリアの手紙の件を話すと、男は怪訝そうな顔をして考え込みます。

「チッ、マリアだと……？」

「別にマリアン家を案内するのは構わねえが、先に村長に事情を聞いておいた方が良いと思うぜ」

「アイツと会うには心構えが必要だからな」

ルシアスは村長の家まで案内してくれます。もし、探索者が彼に目的を明かさない場合、「村で何かするなら村長に話を通してくれ」とルシアスは言います。彼は探索者の対処を村長に任せようとしているのです。村人は全員マリアを狂人だと思っているため、ルシアス以外の住人に話を聞いても、似たような反応です。

10. ウォーカー村長の家

石敷の床に木製の椅子。調理用オーブンを兼ねた暖炉。壁には新聞から切り抜いたヴィクトリア女王の写真。居間の広さから見ても、これがこの村で最も立派な家の室内だと分かる。

急な訪問にもかかわらず、ノーマンズランドを治める男、ジョージ・ウォーカーは快く貴方たちを出迎えてくれた。年齢は60代だろうか？ 厳しい生活は、彼の見た目を年数よりもさらに老いさせているかもしれない。

おかみさんが夏ヨモギのお茶を探索者たちに渡すと、ウォーカー村長はすこし恥じてるように言います。

「この辺はなかなか作物が育たんでな。こんなもんで申し訳ないが…」

「さて、マリアの事じゃったな。ノア、おいで」
すぐに家の手伝いをしていた10歳ほどの少年がやってきます。村長はこう続けます。

「この子が、ゴブリンですじゃ」

「正確には、『マリアがゴブリンと思っ込んで、彼女の息子』だかの」

※ルシアスがいる場合は「マリアは旦那のエディが死んでからおかしくなっちゃったんだよ」と口を挟みます。

▼マリアに何が起きたのか

「あれは、不幸な出来事じゃった。ちょうど去年の今ごろ、エドワードとノアが事故に遭ってな。木材を運ぶ途中、崖から落ちてしまったんじゃ。幸いにもノアは無事じゃったが、エディは助からなかった」

「マリアの悲しみようは、それはもう……とても見ておれなかった。それでもノアが生きていたことを神に感謝し、2人で暮らし始めた。そのはずじゃった」

「しばらく経って、マリアは『これは息子じゃない。ゴブリンだ』などと言い出してな。しまいにはこの子に暴力を振るう始末じゃ。夫を失った悲しみに、気を遣えてしまったんじゃろう」

「どうにも不憫に思って、ノアは儂の家に引き取っておる」

「とは言え、あれはあれで可哀想な娘じゃ。街の人よ、あれと話をする必要あるんじゃろうが、あまり無碍には扱わんといてくれ」

「**マリアの家**はあの丘の上じゃ。事故のことを調べたければ**牧師館**に記録が残っているじゃろう」

「あとは一応、村に**よるず屋**がある。簡単なものなら買えるじゃろ。それから、今夜はうちに泊まるといい。他に寝泊まりできそうな場所も無いのでな。ロクなもてなしもできんが、許してくれ」

村長の語ることは、ノアがコピーである事以外はすべて真実です。村長はマリアを狂人扱いにして、探索者の調査を済ませようとしているのです。マリアはその直感によって、自分の息子では無いことに気づいたのですが、彼女の言葉に耳を傾けるものは、村には誰ひとりとしていません。

▼ノアに話を聞く

どことなく焦点の合わない目をした少年です。受け答えも要領を得ません。

「ごめんなさい。おぼえていないんです」

「ええっと、よく、わかりません」

「すみません。なんでしたっけ」

「もういいですか？おそうじしなきゃいけないんで……」

〈医学〉などで判定しても、ヴィクトリア朝の知識と観察ではノアは人間そのものに見えます。しかしハード成功やエクストリーム成功をすれば、違和感を覚えるかもしれません。彼がレッスーションゴスであることを明らかにするには、〈クトゥルフ神話〉技能の成功が必要です。

→〈人類学〉〈アイデア〉など

最初に村で出会った、ルシアスの家の少年にとっても似ている気がした。

村長やルシアスに似ている事を聞いても、はぐらかされます。

これ以降、ルシアスは自宅に戻ると言い、探索者は村内を自由に行動できます。時間は既に午後をまわっていますが、まだ日は空にあります。

現時点で探索できるのは下記の通りです。

- (1) マリアの家
- (2) 牧師館
- (3) よろず屋
- (4) ルシアスの家

11. (1) マリアの家

マリアの住む家は、ツタに覆われた、ひどく質素なつくりの小屋だった。

ノックすると扉が開き、美しくもやつれきったマリアが顔を覗かせます。彼女は縄をなっていたところで、手には麻縄を持っています。探索者に対しては気のない対応をしますが、手紙の件で来た事を伝えると、とたんに激情をさらけ出します。

「あははあははああははあはははははっ！」
「そう、そう、来てくれたのねっ！さあ、早く、あのゴブリンどもを退治してちょうだいッ！！！！」
「この縄、わかるでしょ？ねえ？ねえ？ねえ？」
「ゴブリンどもを吊して、見世物にしてやるのよ。二度とこんなことをしないように、村の連中にも見せてやらないとね！！」
「なぜゴブリンかって…そんなの、見れば分かるでしょう……？」

何かを言うと、彼女は探索者の胸ぐらをつかみ、激高し、首を絞めようとしています。

「そんな顔して、そんな目をして！どうせお前も、私が狂ってると思ってるんだろうさ！！畜生！畜生っ！」

〈近接戦闘〉で取り押さえるなり、〈精神分析〉でなだめるなりすれば彼女は落ち着きますが、彼女は扉を閉めて引きこもってしまいます。

「もう帰って……。私が話せることなんて何も無いから」

首を絞められかけた探索者は、ここで首元に違和感を覚えます。探るとそこには紙片が挟まっています。広げるとそれは村の地図になっていて、[村はずれ]に印がしてあります。また、紙片の裏側には「助けて」と書かれています。

※マリアは村の人間を誰も信用していないため、誰にも悟られない方法で情報を渡そうと試みましたが、彼女はノアが定期的に村はずれの崖に向かっていることを知っています。かつて単身でその場所へ向かったこともありますが、ルシアスに見とがめられ「投身自殺をしようとしていた」と吹聴されてしまいました。以降、近隣住民の監視にあっています。

〈目星〉などに成功すると、マリア家の訪問が何者かに見張られていたことに気づきます。

※今回見張っているのは、探索者の動向を気にしているルシアスです。

→ 〈オカルト〉〈歴史〉〈法律〉など
マリアはノアを「取り替え子」だと考えているようだ

※取り替え子とは、ヨーロッパの伝承であり、人間の子どもがひそかに連れ去られ、かわりに置き去りにされる妖精のことを指します。ヴィクトリア朝イギリスにおいては、家族を取り替え子だと主張して殺害した事件が少なくとも2件報告されています。

12. (2) 牧師館

村の中央、大きなブナの木の際に牧師館は建っていた。既に事情を聞いていたのか、牧師はにこやかな微笑みをたたえて貴方たちを出迎えた。畑作業の途中だったのか、汚れたクワを手に持っている。

「ようこそ。私は教区牧師のニコルソンと言います」

▼事故について

「あれは去年の夏のことです。土砂崩れに遭って崖に落ちたエドワード・ヘイデン氏とノア君を、ルシアス氏が発見したのです。私とて薬草治療の心得はありますが、ヘイデン氏は頭が潰れており、助けることは適いませんでした」

「幸運にもノア君が無傷だったことは神の思し召しでしょう」

「事件の正確な日付などは、過去の記録を見れば分かるかと。あちらの棚にありますので、ご自由にお探し下さい」

→〈図書館〉〈経理〉など

【教区住民の記録】

●エドワード・ヘイデン

1858年7月1日 洗礼

1879年4月27日 マリア・ワイズと結婚

1889年8月22日 埋葬

●マリア・ヘイデン

1861年9月4日 洗礼

●ノア・ヘイデン

1881年3月9日 洗礼

▼村民の印象について

「ヘイデン夫人は……その、悲しみのあまり混乱しているようですが…きっと時が癒やしてくれるでしょう」

「私はここに赴任してまだ2年なので、そこまで村の事情に精通しているわけではありませんが…ウオーカー村長は思慮深く、立派な方だと思います。ここでおこなわれる行事も、堂々と仕切つてらっしゃいますから」

「ルシアス氏は一見粗野ではありますが、優しい方だと思います。半年ほど前に、捨てられた子を拾って面倒を見ているようですから」

※下働きをさせているノアのコピーについて、ルシアスは「ゴーツウッドの森で拾った子ども」だと説明しています。

▼以前の牧師について

「任期を終えて、ブリチェスターの街に戻られました。ああ…私も早くこんな田舎を出て……い、いえ、何でもありません」

13. (3) よろず屋

みずばらしい商店に入ると、店の女主人タバサが絵新聞をつまらなさそうな顔で眺めていた。店内には、生地や裁縫道具、便箋や筆記具、本、酒、ランタン、作物のタネ、それから、日曜日に教会に着ていくスカーフやリボンなどが並んでいる。

「なんの用だい？街の人が買うようなものは置いてないと思うがね」

ちょっとした飲食物や雑貨類であればここで購入

することができます。

▼事故について

「ひでえ話さね。あんときは長雨が続いて、斜面が崩れちゃったところに巻き込まれちゃったんだろうなあ」

「帰って来ない2人を心配して村の男衆が探しに行ってきた。ルシアスがまだ生きてるノアを見つけたんだが、ずいぶんと動転してたよ。無理もないがね」

▼村人について

「マリア？ なんか頭がおかしくなっちゃってるみたいだけど、あたしにゃ関係無いね」

「村長？ まあ良くやってるんじゃないの。こんな寂れた村じゃ、やれることなんて限りがあるけどさ」

「ルシアス？ 狩りの腕は良いんだろうけどよ。どうにもうさんくさいところがあって、アタシは好きじゃねえ。森で拾ったとかいう子どもをこき使っているしさ。あんなに働かせたら死んじゃうよ」

▼村について

「どこの村もおんなじだと思うけどね。若いのがどンドン街に行っちゃって、ここもうちの爺さんの頃と比べると、人間が半分くらいになっちゃったよ」

「食いもんは輸入すればいい、仕事でもなんでも街にある。若い衆の気持ちも分かるけどね。ここは作物の育ちは悪いし、家畜も妙に奇形で生まれてきやがる。それに、あたしや小さな頃からあの陰気な森がどうも苦手だねえ……ま、今さら他にいくアテも無いだけだね」

▼奇形とは

「奇形で生まれてくる家畜がやけに多い気がする

んだ。この村は呪われてるなんて輩もいるよ」

「首や足がありすぎたり、なすぎたりするんだよ」

→〈生物学〉など

この村には既存の科学を越えた超常的な影響があるようだ。SANチェック(0/1)

※この奇形は、“古のもの”の生命実験機が近くに存在する影響です。

14. (4) ルシアスの家

村の入り口付近にあったルシアスの家に行っても、誰もおらず、鍵が閉まっています。彼は探索者が村はずれに行かないように警戒しているのです。

〈鍵開け〉に成功すれば侵入できます。一部屋しかない小さな家です。木製の椅子と机がひとつずつ。暖炉とわずかな炊事道具。粗末なベッド。これが家財道具のすべてです。

→〈目星〉〈アイデア〉

子ども用の食器もベッドも毛布も着替えも無いことに気づく

この時点でルシアス家の子どもは、ゴーツウッドの森で木の実を拾っています。〈追跡〉などに成功すれば会うことができるでしょう。間近で見れば、ノアと合わせ鏡のようにそっくりであることが分かります。似すぎている事に気付いてしまった探索者はSANチェック(0/1)です。この事をルシアスや村長に問いただしても、「他人のそら似」とはぐらかされるのみです。

15. 村はずれ

マリアから情報を得ている場合、ここに行くことができます。

マリアが記した場所は、ヒースの荒地が続く丘陵地帯になっていた。崖の下にはセヴァン川の支流が細々と流れている。川の水から漂う冷気は、夏の暑さを和らげてくれるにもかかわらず、どこかぞっとする不気味な空気を帯びていた。

さらに印の場所へ探索者が進もうとすると、向こうから猟銃と革袋を持ったルシアスがやってきます。

「おい！何をやっている！」

「もうじき日が暮れるし、危ねえから近づかねえ方が良い。このあたりは、あの事故があった場所だからな」

「さあ、帰るぞ。村長のとこ泊まるんだろう？案内してやるよ」

彼に従わず強行する場合は、ルシアスと戦闘になります。SAN 値ゼロの彼に交渉系技能は通じません。

16. 晩餐会

おそらくは精一杯用意してくれたであろう、この村にしては豪華なディナーが用意されます。

【夕食メニュー】

イングリッシュマフィン

キャベツとアメリカボウフウ、ニンジンの肉入りスープ

プラム入りのプディング

コーヒー

おかみさんはこのように尋ねてきます。

「どうだい。口に合うかね？ アンタ達のために、ルシアスが穫ったヤマウズラをおすそ分けしてもらったんだよ」

※おかみさんは知りませんが、実際はヤマウズラではなく、ノアのコピーを解体した肉です。

料理は村長の家族全員と、ノアも食べています。ウォーカー村長はゴブリン調査よりも、この村のことが気に入ったかどうかを聞きたがります。それは本心であり、彼にとってはこの村を繁栄させる事こそが使命です。

ノアは疲れているようで、早々に寝床に着きます。※レッサーショゴスである彼は、身体の劣化が始まっています。

探索者は客室で村人が寝静まるまで待機してもいいですし、寝てしまっても構いません。

17. 悪夢

探索者が寝た場合、悪夢を見ます。

その夜、貴方は、夢を見る。

暗闇の中、どこから奇妙な音が鳴り響いている。

Li・・・Li・・・

鳥の鳴き声にも、笛の音にも似ているようで、しかし、人と自然が奏であるあらゆる音とは似ていない。

うっすらと、暗闇の中に何かがある気配がする。

目を凝らすと、目が、合った。

そこには、無秩序に並んだ膨大な数の眼球が脈動していた。

貴方は気付いてしまう。

これは夜などではない。闇ではない。

自分は、無数の目を持つ漆黒の怪物に覆い尽くされているのだ、と。

悪夢を見た

→SAN チェック (0/1D3)

探索者は恐ろしい悪夢に、思わず飛び起きます。

18. 夜の追跡行

悪夢を見て飛び起きた探索者、または村人が寝静まるまで待機していた探索者は、窓の外に、夜の道を行く人影を発見します

月明かりに照らされたその人影は、マリアの息子であり、「ゴブリン」の嫌疑をかけられた少年、ノアだった。そして、もう一人連れがいる。外套に隠れてはつきりとは分からないが、ノアと背格好の似た少年だ。ルシアスの家で働いていた少年かもしれない。二人の少年は、村はずれの「崖」を目指して歩いている。

ここで探索者が彼らを追わず、村はずれに行かない場合は、【23. 膨張する狂気】が発生します。2人の跡をつける場合、特に判定はいりません。

貴方は、深い夜の闇に閉ざされたノーマンズランドの村を進んでいく。再びヒースの荒れ地に到着したとき、二つの人影はいずこかへと消えていた。しかしその足跡は崖の下に向かっている。よく見ると手がかり足がかりになる岩は多く、慎重に進めば降りられそうだ。

→〈登攀〉〈DEX〉など

失敗で途中で落下して1点ダメージ

この判定には〈ナビゲート〉〈自然〉〈サバイバル〉などでボーナスダイスを付与する

崖の下の岸辺に降り立った貴方は、人ひとりが入れる程度の大きさの「洞窟」を見つけた。入口の

傍らには、人の大きさを超える大きな岩が傾いている。衝撃が加われば、ここは閉じられてしまうだろう。そして、まだ真新しい足跡がいくつか、闇の中へと向かっていた。

探索者の目的は調査です。ここで洞窟を閉じてしまう明確な理由は無いです。それでも、もし岩を押して閉じてしまうようであれば、【23. 膨張する狂気】へ進みます。

19. 狂気の洞窟

洞窟は湿っており、滑りやすくなっている。時には四つん這いにならなければならない狭い場所もある。貴方は上手く進めるだろうか。

→〈回避〉〈隠密〉〈DEX〉

失敗で頭をぶつけて1点ダメージ

この判定には〈ナビゲート〉〈自然〉〈サバイバル〉などでボーナスダイスを付与する

泥だらけになりながら、貴方は進む。徐々に洞窟は広く、大きくなっていく。ふと、前方が明るくなっていることに気付いた。まず間違いなく、人工の灯りだろう。この先は特に大きな空間があるらしい。そして、そこからは、思わず顔をしかめてしまうほどに、濃い、血臭が漂ってくる。

そこは「屠殺場」だった。人間を、屠殺していた。そこには、2人の人間が逆さまに吊されていた。どちらも頭が切断されている。まるで家畜の血抜きをしているように。

木製のテーブルの上には、血まみれの肉切り包丁が置かれている。同様に血で汚れたエブロン姿の、ウォーカー村長が、見たこともない奇妙な「機械」の横に立っている。彼の足下に無造作に転がって

いる頭は、どちらも、ノアの顔をしていた。

凄惨な光景を目撃してしまった

→SAN チェック (1/1D4)

SAN チェックに失敗した探索者は悲鳴を上げてしまう

村長に声をかけたり、悲鳴を上げた場合は会話イベントが発生します。

▼ここで何をしているのか

「おやおや、こんなところまで調査に分け入ってくるとは。都会の人間はずいぶん仕事熱心じゃの」

「こやつらは、あまり長く保たんのぞな。定期的に『機械』で新しいのを生まねばならんのじゃよ。

そして、古いものは有効活用せねばならん」

「いったいこれが何に見える？ ただの『肉』じゃよ。そう。ニワトリやヤギや豚や牛と同じ肉にすぎん。……諸君等も、美味しい美味しいとって食べていたではないか。この肉が本当にヤマウズラだと思えたのなら、本格的に売りに出すものいいかもしれんな」

探索者は夕食を思い出します。淡々と告げるその内容は、とても嘘とは思えません。

→夕食を食べた場合 SAN チェック (1/1D6)

「元はと言えば、こんな『機械』を見つけてしまったことがすべての始まりじゃ。あの事故で死んだノアが、ここから再び出てくるとは、誰も思わんじゃろ？」

「そう興奮することはない。じきに慣れる。機関車を初めて見た人間は恐れおののき、電報を初めて見た人間は神を冒瀆する邪法だと憤ったではないか。儂のしておるのは同じこと。文明を発達させるための同じことじゃよ」

ウォーカー村長と会話中、または戦闘中の探索者は〈聞き耳〉で、ルシアスの隠密 50%と対抗ロールしてください。成功ならば、背後に猟銃を構えたルシアスが立っていることに気づけます。失敗ならば射撃 (ショットガン) 50%で撃たれます。距離があるために、命中した際のダメージは 1D6 です。

20. 狂気の終焉、あるいは幕開け

ショットガンを発砲した、または探索者に気付かれたルシアスは、以下の口上を述べます。

「やれやれ、こんな夜更けにずいぶんと賑やかじゃねえか」

「あー、なんだ、まあ、ちょうど良い機会かもしれねえな。ノアじゃ小さすぎて、たいした仕事ができねえからよ。ちょっと力作業させるとすぐにくたばっちゃうんだ。お前等の方が、よく働きそうだなア？」

「それに女には別の使い道があるじゃねえか。ひひひッ」

「安心しな。今から死んでも、すぐに別のお前が出てくるからさ。お前らは死のうが生きようが全部使ってやるよォ！」

この後、ルシアスおよびウォーカー村長との戦闘に入ります。

ルシアス 狂気に墜ちた狩人

STR:60 CON:60 SIZ:60 INT:50 POW:40

DEX:55 APP:55 EDU:40 SAN:0 H P:12

技能：目星 45%、追跡 60%、隠密 50%、信用 5%

武器：近接格闘 (棍棒) 30% 1D8 ダメージ

射撃 (20 ゲージショットガン) 50% 射程 10/20/50m

ダメージ 2D6/1D6/1D3 総弾数 2

ウォーカー 狂気に墜ちた村長

STR:40 CON:55 SIZ:50 INT:70 POW:45

DEX:35 APP:45 EDU:60 SAN:0 HP:10

武器：近接格闘（肉切り包丁）30% 1D4+2 ダメージ

ショットガンを所持しているルシアスを PL は恐れるかもしれません。〈射撃〉などに成功すれば、KP は武器データを開示して構いません。20メートルの距離を取ってルシアスは発砲してきます。探索者が遮蔽物に隠れた場合、ルシアスの〈射撃（ショットガン）〉50%にはペナルティダイスが1個付与されます。ルシアスは2発撃ちきったら、棍棒で襲ってきます。

・ルシアスの断末魔

「なんだよ、畜生、いてえよ… ああ、くそっ……死んじまう。なあ、頼むよ……俺をあの機械に入れるのだけは、勘弁してくれ……」

・ウォーカー村長の断末魔

最期を迎える村長の口から、悲鳴とも呪言ともつかない叫びが飛び出した

21. レッサーショゴスの暴走

戦闘に長引き苦戦している場合や、ウォーカー村長を倒した場合にこのイベントは発生します。

LiLiLiLiLiLiLiLiLi

突然、「機械」が耳障りな音を立てた。すると、そこから、奇怪な「肉体」があふれだしてきた。それは、人間のパーツを無秩序にちりばめた、のたうちまわる怪物だった。みるみるうちに膨らみ、巨大化するその身体にはノアの眼球、ノアの鼻、

ノアの口、ノアの耳、ノアの手、ノアの足が、あちこちに生え、うごめいている。

暴走するレッサーショゴスを見てしまった
→SAN チェック (1D3/1D10)

レッサーショゴス "古のもの"の厄介な置き土産
STR:150 CON:100 SIZ:400 INT:- POW:50
DEX:15 HP:63

武器：呑み込み 40% 毎ラウンド 2D6 ダメージ
STR 成功で脱出

装甲なし

膨れあがる怪物は自身を生み出した機械を潰し、さらに探索者のほうへ向かっていきます。ルシアスやウォーカー村長が生存している場合、彼らは呆然として、怪物に取り込まれます。

探索者がレッサーショゴスとの戦闘を望まない場合、〈回避〉〈隠密〉〈DEX〉などに成功すれば、洞窟の出口まで脱出できます。この判定には〈ナビゲート〉〈自然〉〈サバイバル〉などでボーナスダイスを付与します。

洞窟の外に出ると、太陽が昇りかけています。傾いた岩に衝撃を与えて洞窟を封じるには、2ラウンド以内に〈STR〉〈近接戦闘〉〈射撃〉などに2回成功する必要があります（KPは探索者の人数に応じて適宜調整してください）。失敗すると、レッサーショゴスが這い出てしまい、封じることは不可能になります。

22. 封じられた狂気

洞窟を封じる事に成功した場合、疲れ切った探索者たちを朝日が優しく照らします。レッサーショゴスは時間が経過するとともに崩壊していくでし

よう。ノアの身体が冒濫的に利用されることはありません。村に戻るか、それとも、このままロンドンに帰るかは PL に委ねます。

村に戻った場合、村人の対応に特に変化はありません。古のものの「機械」を知っているのは村長とルシアスの二人だけだからです。村長たちがいないことを不思議がりつつ、村人は探索者を見送ります。「村長は事故に遭った」などとボロボロになった探索者たちが言えば、信じて嘆き悲しむでしょう。ちなみに、古のものの「機械」について話しても笑われるか、ふざけているのかと怒りを買うだけです。

村に戻らず、ロンドンに帰る場合は、そこでシナリオ終了です。

事が終わったと知ったマリアは、哀しそうに微笑みながら、探索者たちに深々とお辞儀をします。

23. 膨張する狂気

洞窟を封じきれなかったか、洞窟に入らなかった、または、深夜ノアを追わなかった場合、ノーマンズランドは膨張する「レッサーショゴスの津波」に襲われます。古のものの機械はコピーに限界を迎えており、暴走してしまったのです。

この時、どんな行動をすれば探索者が生還できるのかは、KP の判断に任せます。

レッサーショゴスは時間経過によって劣化していくため、やがて「津波」は終わりを迎えますが、ノーマンズランド一帯は無人の土地となるでしょう。

24. クリア報酬

・"古のもの"の遺物による神話的事件から生還した探索者は、SAN 値を 1D10 回復します。

・洞窟を封印した場合、SAN 値をさらに 1 点回復します。

25. 終わりに

ゴブリン退治といえばファンタジーTRPG の定番ですが、それをクトゥルフでやるとどうなるだろうか……？と考えたところから、このシナリオが生まれました。ヴィクトリア朝の農村生活についてもっと詳しく知りたい方は、デイヴィッド・スーデン『ヴィクトリア時代 イギリスの田園生活誌』を参考にしてください。本シナリオは自由に改変・動画作成・配信等していただいて構いません。ヴィクトリア朝という時代の端境期を楽しんでいただければ幸いです。

製作日：2021 年 1 月 15 日

製作者：gisyo